

多発性骨髄腫研究助成 2024 年度研究課題選考会総括

本研究助成は、骨髄腫患者さんとそのご家族、そして日本骨髄腫患者の会の活動を応援していただいている多くの方々のご厚意とご寄付により成り立っています。2002 年度に始まり、2024 年度は第 23 回研究助成となります。骨髄腫診療に携わる医師や研究者にとって名誉ある研究助成として認識していただいております。患者さんの「骨髄腫治療の進展に対する強い願い」という視点で、厳しく選考させていただきました。また今年度は、骨髄腫を治癒する病気にするための研究に相応しい 1 課題を森広助成として特別に選考させていただきました。審査委員会では、応募課題 14 題について研究の「重要性」「計画・方法の妥当性」「独創性」「波及効果」「遂行能力・研究環境」の 5 つの評価項目及び総合評価について 5 名の選考委員により一次審査を行い、同時に患者・家族の視点から 2 名の患者会委員による評価もいただきました。二次審査は、全委員が参加してウェブ会議で開催しました。情熱のこもった秀逸な応募課題が多く議論が白熱しましたが、特に評価の高かった 4 課題を採択させていただきました。

2024 年度 森広助成 助成額 200 万円

京都府立医科大学 血液内科学 志村 勇司 先生 「多発性骨髄腫における骨髄由来抑制系細胞誘導の制御による新しい治療構築への挑戦」

2024 年度 多発性骨髄腫研究助成 助成額総額 300 万円

日本医科大学 微生物学・免疫学 石橋 真理子 先生 助成額 200 万円

「骨髄腫治療が及ぼす腫瘍免疫微小環境の時間的・空間的多様性の変化」

帝京大学医学部 内科学講座 血液腫瘍研究室 白崎 良輔 先生 助成額 50 万円

「多発性骨髄腫における欠失特異的治療の確立」

金城学院大学 生活環境学部 太田 明伸 先生 助成額 50 万円

「*FIRRM* 遺伝子を標的とした治療戦略の開発研究」

志村先生の課題は、CAR-T 療法や二重特異性抗体薬の効果に影響を及ぼす骨髄由来抑制系細胞の誘導機構を明らかにして、免疫療法の効果増強へとつなげる研究です。石橋先生の課題は、骨髄腫細胞が骨髄内で治療の影響でどのように悪性度を高め、それに応じて免疫系細胞がどのように変化するかを骨髄腫を発症するマウスモデルを用いて理解しようという研究です。白崎先生の課題は、骨髄腫細胞の悪性化や薬剤効果の低下に関与する 17 番染色体欠失などの異常を骨髄腫細胞で人工的に作成し、欠失のない細胞との違いを明らかにすることで新たな治療を開発しようという研究です。太田先生の課題は、骨髄腫の進行にともなって頻度が増加する染色体 1q 増幅で強く発現する *FIRRM* 遺伝子の役割を明らかにする

とともに、新たな核酸医薬の開発を目指す研究です。

基礎研究、臨床研究を問わず、日夜奮闘されておられる諸先生から今後も本研究助成事業に多数の応募があり、研究成果が患者のみなさまのお役に立つことを祈っております。

2025 年 8 月

日本骨髓腫患者の会 多発性骨髓腫研究助成 選考委員会委員長

飯田 真介